

「信州の環境にやさしい農産物認証制度」への取り組み

J Aながのは、消費者の農産物に対する「安全・安心」や「環境」に対する関心が高まる中、各種法律（農薬取締法・食品衛生法・食品安全基準法）等の順守を基本に、「GAP（生産工程管理）手法」の実施、また、「ISO14001取得」（2001年）から「ISO14001自己宣言」へ移行（2010年）により、安全を確保し環境に配慮した持続的な農業生産を目指しています。

また、取り組みの一つとして「信州の環境にやさしい農産物認証制度」による特別栽培農産物の生産に生産者と共に取り組んでいます。

制度の概要

- ・地域の一般的な栽培方法と比較して、化学肥料及び化学合成農薬を50%以上削減して生産する農産物を認証し、認証された農産物には、県の認証番号が入った認証票（シンボルマーク）を付けることができます。
- ・認証は、長野県知事名で行います。
- ・審査は、有機JAS認証の登録認定機関である（財）長野県農林研究財団が行います。

認証区分及び認証基準

区分	基準等
50-50	化学肥料及び化学合成農薬について、「地域慣行施肥量」及び「地区農薬使用回数」50%以上を削減した方法で生産された農産物

※地域慣行施肥量及び地区農薬使用回数については、「長野県における当該農産物について慣行的に行われている化学合成農薬の使用回数及び化学肥料の窒素成分量（地域慣行基準）」の基準を用いる。

地区農薬使用回数は、地域慣行基準に「有機農産物のJAS規格で使用可能な農薬」等を加味した延べ使用回数。

ミニトマト

認証番号：50-50-00109

申請者：JAなごの 信濃町野菜部会 部会長 石田 正一

登録農産物

認証を受けようとする品目	ミニトマト
作 型 名	ハウス雨よけ
認証を受けようとする区分	50-50
栽 培 期 間	2019年4月 ~ 2019年10月
収 穫 期 間	2019年7月10日頃 ~ 2019年10月末日頃 (収穫日数 114日)

肥料の施用計画

種類・名称	成分比(%)				施用量 (kg/10a)	成 分 量 (kg)				備考
	N		P	K		窒 素	リン酸	加里		
	有機 由来	①							②	
①	②	③	④	⑤	①/100* ⑤	(①-②) /100*⑤	③/100* ⑤	④/100* ⑤		
土壌のこ	3	3	4	2	240	7.2	0.0	9.6	4.8	
野菜追肥N30号	18	0	4	8	80	14.4	14.4	3.2	6.4	
ハイ燐マグ	1	0	22	0	60	0.6	0.6	13.2	0.0	
合 計 (kg/10a)					380	22.2	a 15.0	26.0	11.2	
地区慣行施肥量(kg/10a)						b 30				
削 減 率 (%)							$\frac{100-(a/b*100)}{b*100} \%$ 50.0%			

農薬の使用概要

	使用農薬名	倍率	有効成分数	散布回数	成分カウント(A)	除外カウント(B)	慣行回数への付加カウント(C)	
殺菌剤	Zボルドー	500	1	4	4	4		
	ベルコート水和剤	6000	1	2	2			
	トリフミン水和剤	3000	1	2	2			
	アフエットフロアブル	2000	1	2	2			
殺虫剤	アドマイヤー1粒剤	1~2g/株	1	1	1			
	ベストガード水溶剤	1000	1	2	2			
	モスピラン顆粒水溶剤	2000	1	2	2			
	フローバックDF	1000	1	2	2	2		
	アフアーム乳剤	2000	1	2	2			
除草剤								
植調剤								
					合計	19	6	

地域慣行回数

	地域慣行農薬使用回数(D)
収穫開始前	13
収穫期間中 使用回数	16
植調剤	1
除草剤	1
合計	31

農薬の使用回数(A)-(B)	13
地区農薬使用回数(C)+(D)	31
削減率	58

トマト

認証番号：50-50-00110

申請者；ながの農協 信濃町生果トマト部会 部会長 佐藤賢司

登録農産物

認証を受けようとする品目	生食トマト
作 型 名	ハウス雨よけ
認証を受けようとする区分	50-50
栽 培 期 間	2019年4月 ~ 2019年11月
収 穫 期 間	2019年7月20日頃 ~ 2019年11月10日頃 (収穫日数 110日)

肥料の施用計画

種類・名称	成分比(%)				施用量 (kg/10a)	成 分 量 (kg)				備考
	N		P	K		窒 素	リン酸	加里		
	有機 由来								うち化学 由来	
①	②	③	④	⑤	①/100* ⑤	(①-②) /100*⑤	③/100* ⑤	④/100* ⑤		
土壌のこ	3	3	4	2	240	7.2	0.0	9.6	4.8	
野菜追肥N30号	18	0	4	8	80	14.4	14.4	3.2	6.4	
ハイ燐マグ	1	0	22	0	60	0.6	0.6	13.2	0.0	
合 計 (kg/10a)					380	22.2	a 15.0	26.0	11.2	
地区慣行施肥量(kg/10a)						b 37				
削 減 率 (%)							$100 - \frac{a}{b} * 100$ % 59.5%			

農薬の使用概要

	使用農薬名	倍率	有効成分数	散布回数	成分カウント(A)	除外カウント(B)	慣行回数への付加カウント(C)
殺菌剤	ランマンフロアブル	2000	1	3	3		
	コサイド3000	1000	1	2	2	2	
	アミスター20フロアブル	2000	1	2	2		
	ベルコート水和剤	3000	1	2	2		
	アフエットフロアブル	2000	1	2	2		
殺虫剤	アドマイヤー1粒剤	1~2/株	1	1	1		
	ベストガード水溶剤	1000	1	1	1		
	モスピラン顆粒水溶剤	2000	1	1	1		
	プレオフロアブル	1000	1	2	2		
	フローバックDF	1000	1	3	3	3	
	アフファーム乳剤	2000	1	1	1		
除草剤							
植調剤	トマトーン	50~100	1	1花房1回	1		
				合計	21	5	

地域慣行回数

	地域慣行農薬使用回数(D)
収穫開始前	13
収穫期間中使用回数	18
植調剤	1
除草剤	1
合計	33

農薬の使用回数(A)-(B)	16
地区農薬使用回数(C)+(D)	33
削減率	51.5

ピーマン

認証番号：50-50-00111

申請者：JAながの 信濃町野菜部会 部会長 石田 正一

登録農産物

認証を受けようとする品目	ピーマン
作 型 名	露地栽培
認証を受けようとする区分	50-50
栽 培 期 間	2019年4月 ~ 2019年11月
収 穫 期 間	2019年7月1日頃 ~ 2019年10月末日頃 (収穫日数 123日)

肥料の施用計画

種類・名称	成分比(%)				施用量 (kg/10a)	成 分 量 (kg)				備考
	N		P	K		窒 素	リン酸	加里		
	有機 由来	②							うち化学 由来	
①	②	③	④	⑤	①/100* ⑤	(①-②) /100*⑤	③/100* ⑤	④/100* ⑤		
土壌のこ	3	3	4	2	300	9.0	0.0	12.0	6.0	
野菜N450号	14	0	15	10	20	2.8	2.8	3.0	2.0	
野菜追肥N30号	18	0	4	8	60	10.8	10.8	2.4	4.8	
ハイ燐マグ	1	0	22	0	60	0.6	0.6	13.2	0.0	
						0.0	0.0	0.0	0.0	
						0.0	0.0	0.0	0.0	
						0.0	0.0	0.0	0.0	
合 計 (kg/10a)					440	23.2	a 14.2	30.6	12.8	
地区慣行施肥量(kg/10a)						b 35				
削 減 率 (%)							100-(a b*100) % 59.4			

農薬の使用概要

	使用農薬名	倍率	有効成分数	散布回数	成分カウント(A)	除外カウント(B)	慣行回数への付加カウント(C)
殺菌剤	カスミンボルドー	1000	2	3	6	6	
	ランマンフロアブル	2000	1	1	1		
殺虫剤	アドマイヤー1粒剤	1~2g/株	1	1	1		
	モスピラン顆粒水溶剤	4000	1	2	2		
	フローバックDF	1000	1	2	2	2	
	ベストガード水溶剤	2000	1	1	1		
	アーデント水和剤	1000	1	1	1		
除草剤							
植調剤							
					合計	14	8

地域慣行回数

	地域慣行農薬使用回数(D)
収穫開始前	8
収穫期間中使用回数	17
植調剤	0
除草剤	1
合計	26

農薬の使用回数(A)-(B)	6
地区農薬使用回数(C)+(D)	26
削減率	76.9

なす

認証番号：50-50-00112

申請者：JAながの 信濃町野菜部会 部会長 石田 正一

登録農産物

認証を受けようとする品目	なす
作 型 名	露地栽培
認証を受けようとする区分	50-50
栽 培 期 間	2019年4月 ~ 2019年9月
収 穫 期 間	2019年7月10日頃 ~ 2019年9月末日頃 (収穫日数 83日)

肥料の施用計画

種類・名称	成分比(%)				施用量 (kg/10a)	成 分 量 (kg)				備考
	N		P	K		窒 素	リン酸	加里		
	有機 由来	①							うち化学 由来	
①	②	③	④	⑤	①/100* ⑤	(①-②) /100*⑤	③/100* ⑤	④/100* ⑤		
土壌のこ	3	3	4	2	300	9.0	0.0	12.0	6.0	
野菜N450号	14	0	15	10	20	2.8	2.8	3.0	2.0	
野菜追肥N30号	18	0	4	8	60	10.8	10.8	2.4	4.8	
ハイ燐マグ	1	0	22	0	60	0.6	0.6	13.2	0.0	
						0.0	0.0	0.0	0.0	
						0.0	0.0	0.0	0.0	
						0.0	0.0	0.0	0.0	
合 計 (kg/10a)					440	23.2	a 14.2	30.6	12.8	
地区慣行施肥量(kg/10a)						b 35				
削 減 率 (%)							$100 - \frac{a}{b} * 100$ % 59.4			

農薬の使用概要

	使用農薬名	倍率	有効成分数	散布回数	成分カウント(A)	除外カウント(B)	慣行回数への付加カウント(C)	
殺菌剤	アミスター20フロアブル	2000	1	2	2			
	パンチョTF顆粒水和剤	2000	2	1	2		1	
殺虫剤	アドマイヤー1粒剤	1~2g/株	1	1	1			
	モスピラン顆粒水溶剤	4000	1	2	2			
	アフーム乳剤	2000	1	2	2			
	プレオフロアブル	1000	1	1	1			
	フローバックDF	1000	1	2	2	2		
除草剤								
植調剤								
					合計	12	2	1

地域慣行回数

	地域慣行農薬使用回数(D)
殺菌剤	12
殺虫剤	9
植調剤	0
除草剤	1
合計	22

農薬の使用回数(A)-(B)	10
地区農薬使用回数(C)+(D)	23
削減率	56.5